ｵﾘﾝﾋﾟｯｸ ﾊﾟﾗﾘﾝﾋﾟｯｸ観光推進特別委員会 令和３年９月 24 日
観光・国際都市部　資料 22 番
所　管　スポーツ推進課

ブラジル事前キャンプの受入れ及びボランティアの活動に関する報告について

大田区は東京 2020 オリンピックの事前キャンプとして、ブラジルオリンピック委員会（以下、「COB」）の選手団を受け入れた。スタッフの第一陣が来日した６月 19 日以降、選手や監督・コーチ、競技関係者、COB スタッフ等約 200 名が大田区内に滞在し、６競技の事前キャンプを実施した。

１　事前キャンプ概要及び大会成績

※人数は選手に加えて監督・コーチ等を含む

競技	練習施設	期間	人数	成績
男子バレーボール	大田区総合体育館	7/14～7/21	24	４位
ボクシング		7/12～7/22	16	金１、銀１、銅１他
ハンドボール	大森スポーツセンター	7/13～8/1	46	予選ラウンド敗退
レスリング		7/20～7/29	8	１回戦敗退
テコンドー	大田区青少年交流センター	7/15～7/22	11	準々決勝敗退 他
ビーチバレーボール	大森東水辺スポーツ広場	7/13～7/23	23	準々決勝敗退 他

食事風景（ゆいっつ）

男子ハンドボール選手（帰国前日）

（１）宿泊

大田区青少年交流センターとマイステイズプレミア大森に分散して宿泊した。選手村開村後、選手は各競技日程にあわせて移動し、引き続き COB スタッフや競技団体関係者が両施設に滞在していた。

（２）食事

主に大田区青少年交流センターで、COB が手配したシェフ等が作るブラジル料理が提供された。

（３）その他

７月 17 日（土）、ハンドボール女子代表は、同大会に出場する日本女子代表とトレーニングマッチを行った（大森スポーツセンター）。

男子バレーボール

女子ハンドボール
（トレーニングマッチ）

女子ビーチバレーボール

２　事前キャンプ期間中の主な感染対策

（１）ブラジル選手等（COB スタッフ含む）

ア　来日以降、定期的に検査を実施（選手の来日以降は毎日）。

イ　屋内外でのマスクの着用をはじめ手指消毒、手洗い等基本的対策を徹底した。

ウ　移動手段は全て専用車両とし、宿泊施設や練習会場など事前に作成した行動計画に基づく用務先でのみ活動した。区外に移動する際は職員が同行した。

エ　区民等と接触の可能性が見込まれる練習会場や宿泊施設においては、職員もしくはおおたウエルカムボランティアを配置し、動線を確保した。

（２）職員やボランティア等

ア　選手等との接触度合いに応じて事前に検査した（担当職員や通訳ボランティアは毎日）。

イ　職員は選手等と１ｍ以内で 15 分以上会話をせず、ボランティア（通訳除く）は、活動中、選手等と１ｍ距離を空け、挨拶を除き、原則、会話をしなかった。

ウ　通訳ボランティアは、窓口となる COB スタッフのみに対応した。

《参考》検査について

６月：唾液 PCR 検査（区契約）
７～８月：唾液抗原定量検査（都契約）
→ブラジル選手等：約 2,300 回
　職員・ボランティア等：約 870 回

検査ルーム（ゆいっつ）

３　オンライン交流

７月 19 日（月）、各競技チームのコーチと COB スタッフが区立中学校３校の生徒とオンラインで交流した。中学生がブラジルの文化や競技の練習方法など質問したほか、ブラジル国家の斉唱、吹奏楽やチアリーディングを披露し、応援メッセージを送った。また、選手から生徒に向けたメッセージ動画が放映された。

（１）参加校

大森第六中学校、大森第十中学校、石川台中学校

（２）生徒の感想

ポルトガル語で質問した時は緊張したが、内容が伝わり、笑顔でスタッフの方が答えてくれて嬉しかった。

大森第六中学校

大森第十中学校

ブラジルスタッフ
（左：ボランティア）

石川台中学校の生徒から送られた「VAMOS」とバレー代表選手が記念撮影
（VAMOS との文字は生徒ひとりひとりのメッセージカードを合わせて作成）

４　ボランティア活動

各練習施設でモップ掛けや飲み物の補充など行った。また、ビーチバレー場やホテルでは他の利用者等と接触しないように監視役を担った。感染対策のため、リスクの高いボール拾いや食事の配膳など取り止めにした事項もあったが、活動したボランティアからは、「少しでもサポートでき、練習も見られて応援する気持ちが高まった」「ユニフォームでボランティアと分かると選手が手を振ってくれた」「目の前にいた選手をテレビで観ることができて嬉しかった」など、好意的な意見が寄せられた。

練習道具の搬入

練習後のモップ掛け

COB スタッフと通訳ボラを介してコミュニケーションをとる高校生ボランティア

５　まとめ

（１）考察

ア　ブラジル選手等がプレイブック及び事前キャンプ受入れマニュアルを遵守したことに加え、各施設管理者及びボランティアが尽力し、住民等との接触を回避したことで、感染者を一人も出すことなく、ブラジルの計画通りに事前キャンプを終えることができた。

イ　オンライン交流を行った生徒のオリンピックや外国文化への関心、ブラジルを応援する気運を高める機会となった。また、吹奏楽の演奏やポルトガル語によるメッセージ文字などで歓迎の意を伝えることができた。

ウ　公開練習は出来なかったが、ビーチバレーについては公園内にあるため、近づけないようにコーンバー等で会場を囲んでいたが、近隣の方や公園利用者が観ることができたため、ブラジルを応援する気運醸成に繋がった。

エ　選手が自身のインスタグラムで練習の様子を投稿したことにより、区内外から問い合わせや来訪があり、事前キャンプの情報が広まった。

オ　COB スタッフを通じて選手からは、「来日前はこれまでの大会と異なり不安であったが、検査の対応がスムーズであり、また練習時にボランティアや施設スタッフが親切に接してくれたため、快適に過ごすことが出来た。」「今までのオリンピックの中で一番良かった。」などの感想をいただいた。

（２）成果

ア　これまでの合宿を含め、世界のトッププレーヤーのスピードや技術、迫力を練習公開という形で間近で観てもらうことで、オリンピックの素晴らしさと競技の魅力を伝えることができた。

イ　学校訪問や競技者講習会、オンライン交流を通し、学習した語学にジェスチャーを交えてコミュニケーションを図ったことで、生徒をはじめ区民の国際意

識の醸成に寄与することができた。

ウ　事前キャンプの受け入れを通じて、ブラジルオリンピック委員会だけでなく、ブラジル大使館との友好関係をより強めることができ、今後の区民交流の礎とすることができた。

エ　受け入れ施設において、海外のスポーツ選手受け入れやそれに伴う区民交流のノウハウを培うことができ、今後の施設活用の幅の広がりや区民にとっての新たな交流の可能性を示すことができた。

オ　ボランティア活動の機会を提供したことで、新たにボランティアに取り組む区民を増やすことができ、地域の中にボランティアマインドを醸成することができた。